資源評価報告書詳細版の書き方　TeXを使えばこうなる

Ⅰ．書式等

数式等はイタリック体等を使用してよいが、本文中のF、M等の変数、係数等はイタリック体にせずローマン体を使う

インターネット上のデータベース等を引用する際には、文献リストには記載せず、引用箇所にカッコ書きでURLと参照した日付を記載する。

Ⅱ．様式

資源の特性に合わせて項目名（例：年齢→月齡、年齢組成→体長組成）、構成を変更してよい。資源の特性、解析の内容に合わせて項目名、構成を変更してよい。各項目は簡潔に記述し、詳細な説明等は補足資料とする。

Ⅲ．必要な図表

資源や漁業の特性によって適宜変更すること。全ての図表を本文中で引用すること。

不確実性を考慮した検討に関する図（再生産成功率等の変動をとり入れた管理シミュレーション等、要約表およびABC表で提案した全ての漁獲シナリオについて記載（targetも含む）。またBlimitのラインも記載すること）

※水準を判断する指標値の図については、高位と中位・中位と低位の境界ラインおよび高位、中位、低位の文字をグラフ内に書き入れること。

※Blimitが設定されている魚種については、親魚量のグラフにBlimitの線及び数値を入れること（Blimitの線及び数値を入れることが適当でないと考えられる場合は省略可）。

表：

再生産成功率

※必要に応じて漁獲尾数、資源尾数、親魚尾数、加入量を記載しても良い。